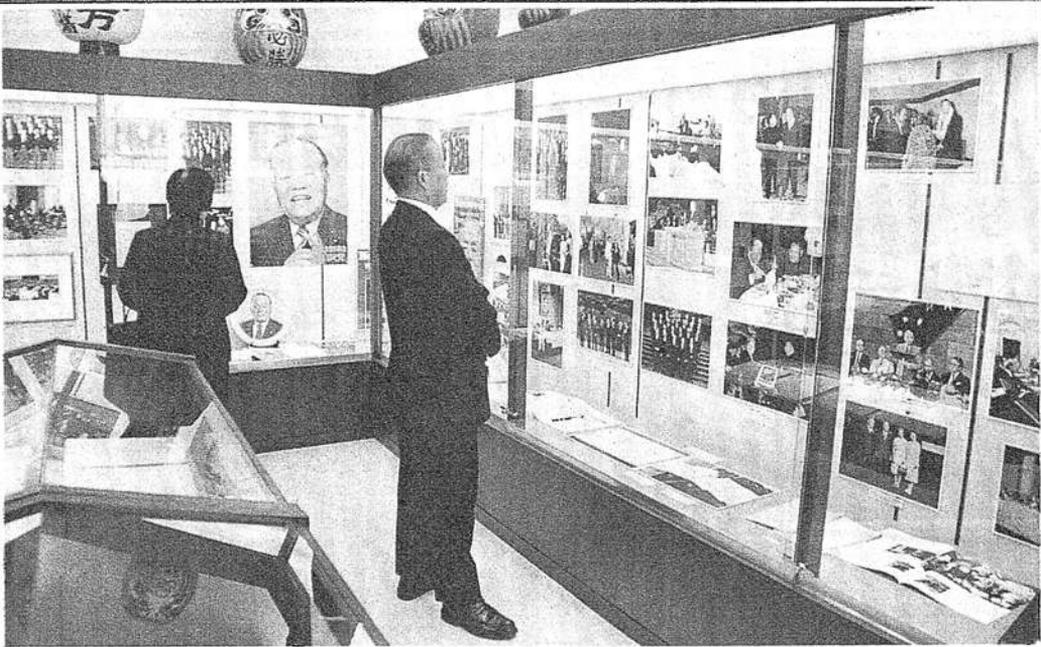


大平正芳記念館が再開



観音寺 写真や映像で功績紹介

観音寺市出身の大平正芳元首相（1910～80年）の功績を伝える「大平正芳記念館」が5日、観音寺市有明町の民間施設「世界のコイン館」2階に新装オープンした。記念式典もあり、元首相の次男で大平正芳記念財団の大平裕理事長や白川晴司市長ら関係者約200人が開館を祝った。

【山中尚登】

元首相は観音寺市のさんら市内の有志が大一部を構成する旧和田平正芳記念館を再設置村出身。同財団は同市坂本町で旧大平正芳記念館を運営していたが、同館は老朽化に伴い2015年3月末に閉館した。

ところが、市民から存続を望む声が多く上り、開館に必要な資金を集めていた。

新記念館（約220

平方メートル）は、三つのコ

ーナーからなり、第1

は元首相の古里や学生

を募集していた。

知っている」と話した。

開館は午前9時〜午後

5時。月曜日休館。

入館料は高校生以上3

00円、小中学生15

0円。問い合わせは同

館（0875・23・0555）。



大平元首相の写真の前であいさつする大平裕理事長

（観音寺市内で）

大平元首相に関する写真や資料を展示したコーナー

（観音寺市有明町の大平正芳記念館で）

時代、政治家になり、故田中角栄元首相と日中国交正常化に取り組んだ外相時代、首相となって、演説する姿を写真や資料で紹介。

第2は、自筆の書や色紙、着用した礼服の他、著書なども展示。

第3は、選挙などで帰郷した際に寝泊まりしていた旧記念館の和室を復元。旧記念館

の畳やふすま、警護のために設置された分厚い防弾窓ガラスをそのまま使い再現した。

田岡さんは「小中学生や政治家を目指す若い人の学習の場として、大平先生の偉業を知ってもらいたい。香

川から再び総理大臣が生まれることに期待している」と話した。

開館は午前9時〜午後5時。月曜日休館。

入館料は高校生以上300円、小中学生150円。問い合わせは同

館（0875・23・0555）。

館（0875・23・0555）。

大平正芳記念館 功績展示し再開

周恩来元首相のめい、来賓

市有明町に再び開館し、この日あった式典に大平元首相が国交正常化に尽力した中国の周恩来元首相のめい、周秉宜さんが来賓として出席。「私たちの上の世代と同じように日中の友好関係の持続のために貢献したい」とあいさつした。

大平元首相（1910～

80）は旧豊浜町出身。旧記念館は元首相の事務所があった建物にあり、遺品や資料を収集・展示していたが、老朽化のため昨年3月に閉館した。

これを惜しんだ地元有志



あいさつする周恩来元首相のめい、周秉宜さん＝観音寺市

が約2600万円の寄付金を集め、市も支援して再開。新しい記念館では自筆原稿などと当時の写真や新聞記事などを展示し、元首

相の軌跡が学べるようになってくる。

元首相の次男で大平正芳記念財団の大平裕理事長は「父は70歳を過ぎたら地元

震える音色 心も震わす

いる。

「トレンブル」には「震える」という意味がある。物が震えて出る音に触れ、心も震わせてほしい。そんな思いを込めて、アルバニア出身のアンリ・サラさん（42）が作った。

室内では、街でサククスを吹く人の映像と、尺八の音が響く。「東洋と西洋と違った対照的な物が反発したり、共鳴したりする場」とアンリさんは話す。

映像を見ながら、尺八の

しま
うみ
あるく

瀬戸芸2016

古民家の壁にある筒がゆつくりと回り、音がはじける。壁紙に模様をつけるローラーをモチーフに作ったオルゴールだ。「オール・オブ・ア・トレンブル（シューオール）」という名の作品で、よせる波のようにオルゴールの音が広がって

豊島シーウォールハウス アンリ・サラ

で若い人と国を語りたという夢をもっていた。若い人に父の姿を追っていただければ望外の喜びです」と話した。

（藤井達哉）



大平氏偉業より見やすく

昨年3月に閉館した旧和田村(現・観音寺市)出身の元首相、大平正芳氏(1910～80年)の記念館が、観音寺市有明町の琴弾公園で再び開館した。「新大平正芳記念館」として、旧記念館にあった遺品を中心に、約550点を展示する。

(新居重人)

大平氏が心筋梗塞で死去した5年後の1985年、選挙事務所として使用していた建物(観音寺市坂本町)を旧記念館として開放。30年間で3万人以上が来館したが、老朽化のため閉館した。

「大平氏の偉業を後世に引き継ぎたい」と、運営していた大平正芳記念財団(東京)が市などに協力を要請。市は琴弾公園内の「世界のコイン館」2階の会議室(約300平方尺)を提供することを決めた。改修費を募ったところ、市内外の約860の団体や個人から目標額よりも約1000万円多い計2601万円が寄せられた。

新たな記念館では、時系列に写真や手紙を展示して理解しやすくした。旧記念館で保存してきた大平氏の幼少期から首相時代にかけての約100枚の写真も新たに現像、修整処理して額装したほか、すずりや

観音寺に新記念館

筆、えんぴつなどの愛用品、帰郷時に寝泊まりしていた旧記念館の2階和室(6畳)もそのまま移築した。

来館した同市観音寺町の新居光夫さん(81)は「懐かしい品ばかりで感動した。さらに多くの人が訪れてくれるのでは」と期待を込めた。

記念館近くのホテルでは

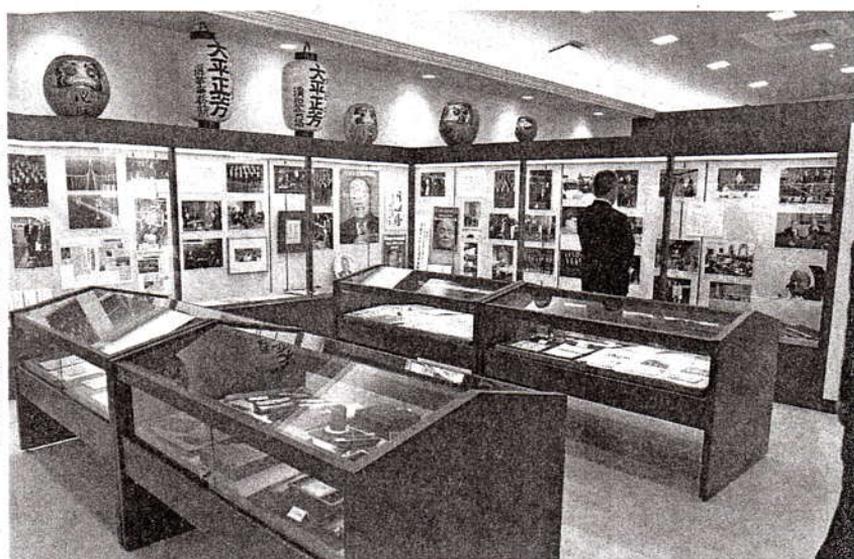
5日、約170人の関係者らが出席し、開設記念式典を開催。大平氏の次男で大平正芳記念財団理事長の裕さん(77)は「子供たちに偉業を知ってもらうため、教材としても活用してもらえる陳列にした。今後はセミナーなどを開いて協力していきたい」と述べた。

運営は同市の第3セクタ
1・観音寺観光開発が担う。開館は午前9時～午後5時で月曜休館。入館料は高校生以上300円、小学生150円。問い合わせは同記念館(0875・230055)。



「大平正芳記念館」が再出発

観音寺・琴禅公園内



地域振興の発信基地に

いったん閉館した「大平正芳記念館」が、香川県観音寺市有明町の琴禅公園内の世界のコイン館2階に再び開館した。元首相の顕彰とともに、地域振興の発信基地として再出発した。

大平正芳元首相（1910～80年）は旧和田村出身。旧記念館は観音寺市坂本町の元選挙事務所の建物にあったが、老朽化などのため昨年3月、閉館した。再開を望む声が高まる中、地元の有志らが寄付金を集め、市も支援して再開にこぎつけた。

新記念館は、生涯の足跡と業績▽故人をしのぶ遺品・記念品・著書・映像▽旧記念館の和室の3つのコーナーで構成されている。旧記念館にあった重要文獻類は国立国会図書館へ、9千冊を数える「大平文庫」は香川県立図書館へ移された。

5日に行われた記念式典には、大平元首相の次男で記念財団の大平裕理事長や地元の有志らが出席。元首相とともに国交正常化に尽力した中国の周恩来元首相のめい、周秉宜さんが来賓としてあいさつし、「日中の国交が結ばれた当時を思い出した。両国の発展と永遠の友好関係が続くよう貢献していきたい」と述べた。

記念館は市の第三セクターが運営。月曜休館（祝日の場合は火曜日）。入場料は高校生以上300円、小学生150円。

問い合わせは同館（☎0875・23・0005）。

再開された「大平正芳記念館」の館内＝観音寺市有明町